

地域木材産業研究会・木材と水研究会 2017年春季合同講演会 開催報告
地域木材産業研究会
木材と水研究会

荒木博章（地域木材産業研究会幹事、熊本県林業研究指導所）

2017年3月17日～19日に九州大学で開催された第67回日本木材学会大会（福岡大会）にあわせて、3月19日午後（一社）日本木材学会 地域木材産業研究会・木材と水研究会の共催、（公社）日本木材加工技術協会の協賛により春季合同講習会を開催しました。

テーマは「国産針葉樹“大径”材の利用拡大に向けて」一価格・品質・安定供給への課題と技術開発一と題して、人工林資源の充実により全国的に課題となりつつある“地域材の大径化”について、これまでの各方面の研究の取組みなどをふまえてその活用等について考えるために5名の講師の方々に御講演いただきました。

・スギ大径材の材質と大径材製材の課題

森林総合研究所 松村ゆかり氏

原木市場での大径材の調査をもとに平均年輪幅や容積密度等の材質について、また製材試験による木取りと製材歩止りの試験結果とともに大径材製材の課題と高付加価値化に関してご講演いただきました。

・宮崎県におけるスギ大径材加工の課題と心去り構造材の乾燥性

宮崎県木材利用技術センター 小田久人氏

宮崎県にて取り組まれた、大径材より製材した心去り正角及び平角構造材の乾燥性に関する研究結果とそれをふまえた歩増し寸法の提案、さらに心去り材に対する工務店等ユーザーの意識調査の結果についてご講演いただきました。

・減圧乾燥技術の開発：企業との研究開発・技術普及について

岡山県農林水産総合センター 河崎弥生氏

乾燥材生産技術に関するこれまでの取組みと考えるについて、また岡山県に多いヒノキ材について、色合い等を活かした乾燥材生産を目指して最近取り組まれた熱風・減圧乾燥方法の開発と今後の普及の取組みについてご講演いただきました。

・カラマツ利用のこれまでとこれから

長野県林業総合センター 吉田孝久氏

長野県における昭和30年代からのカラマツ利用の取組み、また土木用材から建築用材としての利用技術開発に関する取組み、さらに高温セット乾燥法、信州型木製ガードレール等に関する研究開発や最近の接着重ね梁の開発に関してご講演をいただきました。

・スギ大径材から得られた心去り構造材の強度特性

宮崎県木材利用技術センター 荒武志朗氏

心持ち平角材、および中心定規挽きと側面定規挽きした心去り平角材の比較に関して、板目で2丁取りした場合、追い桎で2丁取りした場合、4丁取りした場合の曲げ、縦圧縮、曲げクリープ特性の違いについてご講演をいただきました。

大会の最終日での開催でしたが、65名と多くの方々に参加していただきました。また、うち2割強の方々が当日申込みされたという状況であり、地域材・大径材に関する関心の高さが感じられました。

講演後の質疑応答による総合討論では、参加者からは心去り材の曲り、心持ち材との比較についての質問や心去り材に対する利用者側の持つイメージ、また減圧乾燥のスギへの効果等についての質問が寄せられ、予定時間が足りないほどでした。

大径材の利用にあたっては製材、乾燥や材質、強度をはじめ流通、建築など様々な分野にわたる研究開発や実用化の取組みが必要であると思われます。この講演会が大径材利用の足掛かりとなり、今後の取組みが活発になることが望まれます。

最後になりますが、5名の講師の皆様、また講演会に参加頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。本研究会の詳細は協賛をいただきました（公社）日本木材加工技術協会が発行する「木材工業」に掲載されています。ご一読いただければ幸いです。



講演会の様子